

**IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE**

In re Patent Application of:

Yutaka UEMATSU et al.

Application No.: Not Yet Assigned

Group Art Unit: Unknown

Filed: February 10, 2004

Examiner: Unknown

For: NO<sub>x</sub> CATALYST REGENERATION METHOD FOR NO<sub>x</sub> PURIFYING SYSTEM AND  
NO<sub>x</sub> PURIFYING SYSTEM

**SUBMISSION OF CERTIFIED COPY OF PRIOR FOREIGN  
APPLICATION IN ACCORDANCE  
WITH THE REQUIREMENTS OF 37 C.F.R. § 1.55**

Commissioner for Patents  
PO Box 1450  
Alexandria, VA 22313-1450

Sir:

In accordance with the provisions of 37 C.F.R. § 1.55, the applicant(s) submit(s)  
herewith a certified copy of the following foreign application:

**Japanese Patent Application No(s). 2003-041478**

**Filed: February 19, 2003**

It is respectfully requested that the applicant(s) be given the benefit of the foreign filing  
date(s) as evidenced by the certified papers attached hereto, in accordance with the  
requirements of 35 U.S.C. § 119.

Respectfully submitted,

STAAS & HALSEY LLP

Date: February 10, 2004

By: 

James D. Halsey, Jr.  
Registration No. 22,729

1201 New York Ave, N.W., Suite 700  
Washington, D.C. 20005  
Telephone: (202) 434-1500  
Facsimile: (202) 434-1501

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 2月19日  
Date of Application:

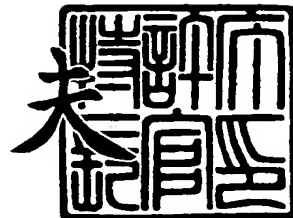
出願番号 特願2003-041478  
Application Number:  
[ST. 10/C]: [JP 2003-041478]

出願人 いすゞ自動車株式会社  
Applicant(s):

2004年 1月13日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井 康



【書類名】 特許願

【整理番号】 PI03021901

【提出日】 平成15年 2月19日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 F01N 3/08

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県藤沢市土棚 8 番地 株式会社いすゞ中央研究所  
内

【氏名】 上松 豊

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県藤沢市土棚 8 番地 株式会社いすゞ中央研究所  
内

【氏名】 横山 仁

【特許出願人】

【識別番号】 000000170

【氏名又は名称】 いすゞ自動車株式会社

【代理人】

【識別番号】 100066865

【弁理士】

【氏名又は名称】 小川 信一

【選任した代理人】

【識別番号】 100066854

【弁理士】

【氏名又は名称】 野口 賢照

【選任した代理人】

【識別番号】 100068685

【弁理士】

【氏名又は名称】 斎下 和彦

## 【手数料の表示】

【予納台帳番号】 002912

【納付金額】 21,000円

## 【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法及び NO<sub>x</sub> 浄化システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 リーン時に NO<sub>x</sub> を直接分解し、リッチ時に再生される直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を排気通路に備えた NO<sub>x</sub> 浄化システムにおける NO<sub>x</sub> 触媒再生方法であって、触媒温度検知手段によって検知された温度が所定温度範囲にある時は、リッチ条件制御を禁止することを特徴とする NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法。

【請求項 2】 リーン時に排気ガス中の NO<sub>x</sub> を直接分解し、リッチ時に再生される直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を排気通路に備えた NO<sub>x</sub> 浄化システムにおいて、触媒温度検知手段を具備し、前記触媒温度検知手段により検知された温度が所定温度範囲にある時は、リッチ条件制御を禁止する制御を行う制御装置を備えたことを特徴とする NO<sub>x</sub> 浄化システム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、内燃機関の排気ガス中の NO<sub>x</sub>（窒素酸化物）を直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を用いて浄化する NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法及び NO<sub>x</sub> 浄化システムに関する。

【0002】

【従来の技術】

自動車の内燃機関や据置式の内燃機関等の排気ガスから、NO<sub>x</sub> を還元して除去するための触媒型の排気ガス浄化装置について種々の研究や提案がなされており、特に、自動車等の排気ガスを浄化するために、NO<sub>x</sub> 吸蔵還元型触媒や三元触媒等が使用されている。

【0003】

この NO<sub>x</sub> 吸蔵還元型触媒を機関の排気通路に配置した内燃機関の排気浄化装置では、流入する排気ガスの空燃比がリーンである時に NO<sub>x</sub> を NO<sub>x</sub> 吸蔵還元

型触媒に吸収させ、 $\text{NO}_x$  吸収能力が飽和に近くなると、流入する排気ガスの酸素濃度を低下させて、排気ガスの空燃比を理論空燃比やリッチ状態にすることにより吸収した  $\text{NO}_x$  を放出させて、 $\text{NO}_x$  吸収能力を回復させると共に、放出された  $\text{NO}_x$  を併設した貴金属触媒により還元させる再生操作を行っている。

#### 【0 0 0 4】

この  $\text{NO}_x$  吸蔵還元型触媒では、触媒担体上に白金 (Pt) 等の貴金属触媒とバリウム (Ba) 等のアルカリ土類等の  $\text{NO}_x$  吸収剤を担持しており、高酸素濃度雰囲気下では、排気ガス中の NO は白金の触媒作用により酸化されて  $\text{NO}_2$  となり、 $\text{NO}_3^-$  の形で触媒内に拡散し硝酸塩の形で吸収される。

#### 【0 0 0 5】

そして、空燃比がリッチになり酸素濃度が低下すると  $\text{NO}_3^-$  が  $\text{NO}_2$  の形で放出され、排気ガス中に含まれている未燃 HC や CO や  $\text{H}_2$  等の還元剤により白金の触媒作用を受けて、 $\text{NO}_2$  は  $\text{N}_2$  に還元される。この還元作用により、大気中に  $\text{NO}_x$  が放出されるのを阻止することができる。

#### 【0 0 0 6】

この  $\text{NO}_x$  吸蔵還元型触媒には、 $\text{NO}_x$  吸収可能な  $\text{NO}_x$  量が、 $\text{NO}_x$  吸収剤の温度によって大きく変化するという問題があるため、排気温度に応じて  $\text{NO}_x$  吸収時間を変えて、最適な  $\text{NO}_x$  吸収時間を設定するなどの工夫がなされている（例えば、特許文献 1 参照。）。

#### 【0 0 0 7】

一方、この  $\text{NO}_x$  吸蔵還元型触媒とは別に、 $\text{NO}_x$  を直接還元する触媒（以下、直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒という。）がある。この直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒は、 $\beta$  型ゼオライト等の担体に触媒成分であるロジウム (Rh) やパラジウム (Pd) 等の金属を担持させたものである。また、金属の酸化作用を軽減し、 $\text{NO}_x$  還元能力の保持に寄与するセリウム (Ce) を配合したり、下層に三元触媒を設けて酸化還元反応、特にリッチ状態における  $\text{NO}_x$  の還元反応を促進するようにしたり、 $\text{NO}_x$  の浄化率を向上させるために担体に鉄 (Fe) を加える等している。

#### 【0 0 0 8】

この直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒は、硫黄被毒の問題が少ないという利点を有し、デ

ディーゼルエンジン等の内燃機関の空燃比がリーン状態の排気ガスのような酸素濃度が高い雰囲気では、 $\text{NO}_x$  を  $\text{N}_2$  に直接還元するが、この還元の際に、触媒の活性物質である金属に  $\text{O}_2$  が吸着して還元性能が悪化する。

#### 【0009】

そのため、排気ガスの空燃比が理論空燃比やリッチ状態になるように、排気ガス中の酸素濃度を略ゼロ%に低い状態にして、触媒の活性物質を再生して活性化する必要がある。なお、この触媒の再生は、他の触媒に比較して低温（例えば 200℃以上）でも迅速に行なわれる。

#### 【0010】

従って、この直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒をエンジンの排気通路に設けた  $\text{NO}_x$  浄化システムにおいて十分な  $\text{NO}_x$  浄化性能を発揮させるためには、エンジン稼働中に通常運転のリーン条件制御と触媒再生用のリッチ条件制御を適宜切り換えて行う必要がある。

#### 【0011】

##### 【特許文献1】

特開平 7 - 1 0 2 9 5 4 号公報 （第 2 頁、第 3 頁）

#### 【0012】

##### 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、この直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒には、リッチ条件制御を行っても、触媒温度が高温領域に入っている場合には、触媒再生のためにリッチ条件制御を行うと、かえって外気に排出される  $\text{NO}_x$  量が増加し、しかも、触媒の再生を図ることができないため、浄化性能が回復されず、また、燃費の悪化を招くという問題がある。

#### 【0013】

つまり、この直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒は、 $\text{NO}_x$  吸蔵還元型触媒と異なり、化学的な結合によって  $\text{NO}_x$  を吸蔵することは行われませんが、物理的に  $\text{NO}_x$  が吸着される現象を伴い、その  $\text{NO}_x$  吸着量と触媒温度との関係は図 3 に示すような関係となっている。そのため、リッチ条件下であっても触媒温度が高温領域になると、触媒温度が上昇したことによって  $\text{NO}_x$  吸着量が減少し、減少した分の  $\text{NO}$

x が吐き出され、これにより NO<sub>x</sub> 排出量が増加すると推定される。

#### 【0014】

図 4 に、理論空燃比のリッチ条件で運転し、時間の経過とともに触媒出口の排気ガス温度を上昇させた時の触媒出口 NO<sub>x</sub> 濃度を示す。この図 4 によると、NO<sub>x</sub> 触媒へ一定量の NO<sub>x</sub> が供給されているにもかかわらず、触媒出口排気ガス温度の上昇に対応して触媒出口 NO<sub>x</sub> 量が増加し、触媒出口排気ガス温度が高くなると、入口側から直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒に流入する NO<sub>x</sub> 量以上の NO<sub>x</sub> 量が触媒出口から放出されており、特に、420℃以上では著しく多くなっている。

#### 【0015】

本発明は上記の問題点を解決するためになされたもので、その目的は、エンジンの排気通路に設けた直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒の NO<sub>x</sub> 浄化能力を回復する触媒再生のために、一時的に排気ガスをリッチ条件にする際に、触媒温度検知手段で検知された温度によってリッチ条件制御に移行するか否かを判別し、触媒温度検知手段で検知された温度が一定の温度範囲内にあるときのみリッチ条件制御に移行することにより、大気中への NO<sub>x</sub> の排出を抑制でき、また、確実に浄化性能の回復を図ることができる NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法及び NO<sub>x</sub> 浄化システムを提供することにある。

#### 【0016】

##### 【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するための NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法は、リーン時に NO<sub>x</sub> を直接分解し、リッチ時に再生される直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を排気通路に備えた NO<sub>x</sub> 浄化システムにおける NO<sub>x</sub> 触媒再生方法であって、触媒温度検知手段によって検知された温度が所定温度範囲にある時は、リッチ条件制御を禁止することを特徴として構成される。

#### 【0017】

そして、上記の NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法を実施するための NO<sub>x</sub> 浄化システムは、リーン時に排気ガス中の NO<sub>x</sub> を直接分解し、リッチ時に再生される直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を排気通路に備えた NO<sub>x</sub> 浄化システムにおい

て、触媒温度検知手段を具備し、前記触媒温度検知手段により検知された温度が所定温度範囲にある時は、リッチ条件制御を禁止する制御を行う制御装置を備えたことを特徴として構成される。

#### 【0018】

この直接還元型 $\text{NO}_x$ 触媒は、 $\beta$ 型ゼオライト等の担体に触媒成分であるロジウム (Rh) やパラジウム (Pd) 等の特別な金属を担持させて構成することができる。また、触媒再生のためのリッチ条件制御は、吸気絞り等の吸気量制御や後噴射等の燃料噴射制御や EGR 制御等で実施することができ、この所定温度範囲は、実験等により求められ、予め設定された数値やマップデータ等から求められる温度範囲であり、例えば、 $400^\circ\text{C} \sim 500^\circ\text{C}$  の範囲内にあるような所定の判定値より高温の温度領域をいう。

#### 【0019】

触媒温度検知手段による触媒温度や排気ガス温度の計測は、図 2 に示すように触媒や排気通路に温度センサを配設して測定する方法や、エンジン回転数とアクセル開度から、予めキャリブレーションによって設定された触媒温度マップや排気ガス温度マップを参照して算出する方法等が考えられる。

#### 【0020】

そして、この $\text{NO}_x$ 浄化システムの $\text{NO}_x$ 触媒再生方法及び $\text{NO}_x$ 浄化システムによれば、排気ガス中の $\text{NO}_x$ の浄化に直接還元型 $\text{NO}_x$ 触媒を用いる $\text{NO}_x$ 浄化システムにおいて、リッチ条件制御において触媒出口の $\text{NO}_x$ 濃度が大きくなる触媒の温度範囲を避けて、リッチ条件制御を行うことができるので、大気中への $\text{NO}_x$ の放出を防止しながら、効率よく排気ガス中の $\text{NO}_x$ を浄化できる。また、リッチ条件で確実に直接還元型 $\text{NO}_x$ 触媒の再生を図ることができるので、燃費の悪化を防止することができる。

#### 【0021】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明に係る $\text{NO}_x$ 浄化システムの $\text{NO}_x$ 触媒再生方法及び $\text{NO}_x$ 浄化システムについて、図面を参照しながら説明する。

#### 【0022】

図1に示すように、このNO<sub>x</sub>浄化システム10においては、エンジン1の吸気通路（吸気管）2に吸入空気量センサ（マスエアフローセンサ）21とターボチャージャ31のコンプレッサ31aとインタークーラ22とインテークスロットル（吸気絞り弁）23が設けられ、排気通路（排気管）3にターボチャージャ31のタービン31bと直接還元型NO<sub>x</sub>触媒32が設けられ、また、EGR通路（EGR管：排気循環通路）4にEGRクーラ41とEGRバルブ42が設けられる。

#### 【0023】

更に、触媒温度を検知するための触媒温度検知手段である温度センサ71が、直接還元型NO<sub>x</sub>触媒32に配設される。なお、触媒温度の代りに排気ガス温度を使用する場合は、温度センサ71は直接還元型NO<sub>x</sub>触媒32の入口近傍又は出口近傍に配設される。

#### 【0024】

また、燃料噴射系には、燃料タンク（図示しない）から燃料Fをエンジンの燃焼室54に供給するための燃料ポンプ51とコモンレール52と燃料噴射弁（インジェクタ）53が設けられ、更に、アクセル開度A<sub>cc</sub>、エンジン回転数N<sub>e</sub>、クランク角CA等を入力し、エンジンを制御するECU（エンジンコントロールユニット）と呼ばれる制御装置60が設けられている。

#### 【0025】

そして、直接還元型NO<sub>x</sub>触媒32は、 $\beta$ 型ゼオライト等の担体にロジウム（Rh）やパラジウム（Pd）等の特別な金属（活性物質）を担持させて構成される。そして、更に、金属の酸化作用を軽減し、NO<sub>x</sub>還元能力の保持に寄与するセリウム（Ce）を配合したり、下層に白金等を有する三元触媒を設けて酸化還元反応、特にリッチ状態におけるNO<sub>x</sub>の還元反応を促進するようにしたり、また、NO<sub>x</sub>の浄化率を向上させるために担持体に鉄（Fe）を加えたりする場合もある。

#### 【0026】

この直接還元型NO<sub>x</sub>触媒32は、ディーゼルエンジン等の内燃機関の空燃比がリーン状態にある排気ガスのように酸素濃度が高い雰囲気では、NO<sub>x</sub>と接触

して、 $\text{NO}_x$  を  $\text{N}_2$  に直接還元すると共に、触媒の活性物質に  $\text{O}_2$  が吸着して還元能力が低下する。この還元能力は、空燃比が理論空燃比やリッチである時のように排気ガス中の酸素濃度が略ゼロ%の還元雰囲気にすることにより再生できる。

#### 【0027】

そして、 $\text{NO}_x$  浄化システムの触媒再生は、図2に示すような制御フローに従って行われる。この制御フローは、エンジンの制御フローと並行して実行されるフローであり、エンジンの運転開始と共に実行が開始され、エンジンの運転終了と共に、即ち、エンジンキーOFFの割り込みと共に、この制御フローはストップされる。

#### 【0028】

そして、この制御フローがスタートすると、リーン条件制御フローに入り、ステップS11で、エンジン回転数 $N_e$ と燃料噴射量 $Q$ を入力し、ステップS12で、このエンジン回転数 $N_e$ と燃料噴射量 $Q$ からリーン設定時間マップを参照してリーン設定時間 $t_{ls}$ を算出する。

#### 【0029】

次のステップS13で、リーン条件制御を所定の時間（制御の時間間隔に係する時間）の間行い、ステップS14のリーン条件制御の終了判定に行く。

#### 【0030】

このステップS13では、排気ガス中の $\text{NO}_x$ は直接還元型 $\text{NO}_x$ 触媒32の活性物質と接触して、 $\text{NO}_x$ を $\text{N}_2$ に還元する。なお、この還元に際して活性物質に $\text{O}_2$ が吸着されるため、還元能力が徐々に低下していく。

#### 【0031】

そして、ステップS14のリーン条件制御の終了判定で、リーン積算時間 $t_l$ がリーン設定時間 $t_{ls}$ を超えておらず、リーン条件制御が終了していないと判定された時は、ステップS13に戻ってリーン条件制御を繰り返し、また、リーン積算時間 $t_l$ がリーン設定時間 $t_{ls}$ を超えて、リーン条件制御が終了したと判定された時は、ステップS15に行く。

#### 【0032】

このステップS 15では、触媒温度（又は排気ガス温度） $T_e$  を入力し、ステップS 16で触媒温度 $T_e$  が所定の設定温度 $T_{e0}$ より低いかなんかを判定する。このステップS 16で触媒温度 $T_e$  が所定の設定温度 $T_{e0}$ より高い場合には、リッチ条件制御に移行すると、 $NO_x$ の吐き出しが生じるので、ステップS 13に戻り、触媒温度 $T_e$  が所定の設定温度 $T_{e0}$ より低くなるまで、リーン条件制御を繰り返す。なお、この所定の設定温度 $T_{e0}$ は、図3のような特性を有する直接還元型 $NO_x$ 触媒の場合には、例えば、 $400^{\circ}C \sim 500^{\circ}C$ の範囲内にある温度として設定される。

#### 【0033】

また、ステップS 16で触媒温度 $T_e$  が所定の設定温度 $T_{e0}$ より低い場合には、リッチ条件制御を行っても、 $NO_x$ の吐き出しが生じないので、ステップS 17に行き、リッチ条件制御フローに移行する。

#### 【0034】

このステップS 17ではエンジン回転数 $N_e$  と燃料噴射量 $Q$ を入力し、次のステップS 18でエンジン回転数 $N_e$  と燃料噴射量 $Q$ からリッチ設定時間マップを参照してリッチ設定時間 $t_{rs}$ を算出する。

#### 【0035】

そして、次のステップS 19では、リッチ条件制御を所定の時間（制御の時間間隔に関係する時間）の間行う。このリッチ条件制御では、エンジン回転数 $N_e$  と燃料噴射量 $Q$ に対応して予め設定されたインテークスロットル23の吸気絞り制御やポスト噴射等のリッチ条件制御を行い、排気ガス中の酸素濃度を略ゼロ%にして排気ガスをリッチ状態にして、活性物質の活性化を図り、触媒を再生する。

#### 【0036】

このステップS 19の後に、ステップS 20で、リッチ積算時間 $t_r$  がリッチ設定時間 $t_{rs}$ を超えたかなんかにより、リッチ条件制御の終了を判定する。

#### 【0037】

このステップS 20の判定で、リッチ条件制御が終了していない場合は、ステップS 19のリッチ条件制御を繰り返してリッチ条件制御が終了するのを待ち、

ステップ S 20 の判定で、リッチ条件制御は終了した場合には、ステップ S 11 に戻る。

#### 【0038】

以上のステップ S 11 ～ステップ S 20 を繰り返し実行し、この実行中にステップ S 21 のエンジンキー OFF による割り込みが生じると、ステップ S 22 で制御終了作業をしてから、例えば、リーン条件制御やリッチ条件制御の途中でストップする場合に、次回にこの制御フローがスタートする時に、リーン積算時間  $t_l$  やリッチ積算時間  $t_r$  の初期値をストップ時の値とすることができるように、リーン積算時間  $t_l$  やリッチ積算時間  $t_r$  を記憶してからストップする。

#### 【0039】

以上の NO<sub>x</sub> 浄化システム及びその触媒再生の制御によれば、リッチ条件制御において触媒出口の NO<sub>x</sub> 濃度が大きくなる触媒の温度範囲を避けて、リッチ条件制御を行うことができるので、大気中への NO<sub>x</sub> の放出を防止しながら、効率よく排気ガス中の NO<sub>x</sub> を浄化でき、また、燃費の悪化を防止することができる。

#### 【0040】

##### 【発明の効果】

本発明の NO<sub>x</sub> 浄化システムの NO<sub>x</sub> 触媒再生方法及び NO<sub>x</sub> 浄化システムによれば、排気ガス中の NO<sub>x</sub> の浄化に直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を用いる NO<sub>x</sub> 浄化システムにおいて、リッチ条件制御において触媒出口の NO<sub>x</sub> 濃度が大きくなる触媒の温度範囲を避けて、リッチ条件制御を行うことができるので、大気中への NO<sub>x</sub> の放出を防止しながら、効率よく排気ガス中の NO<sub>x</sub> を浄化できる。また、リッチ条件で確実に直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒の再生を図ることができるので、燃費の悪化を防止することができる。

##### 【図面の簡単な説明】

##### 【図 1】

本発明の実施の形態の直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒を有する排気浄化システムを備えたエンジンのシステムを示す図である。

##### 【図 2】

本発明の実施の形態の制御フローを示す図である。

【図 3】

リッチ条件を保持した時の直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒の特性を示す図である。

【図 4】

直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒の触媒温度と NO<sub>x</sub> 吸着量の関係を示す図である。

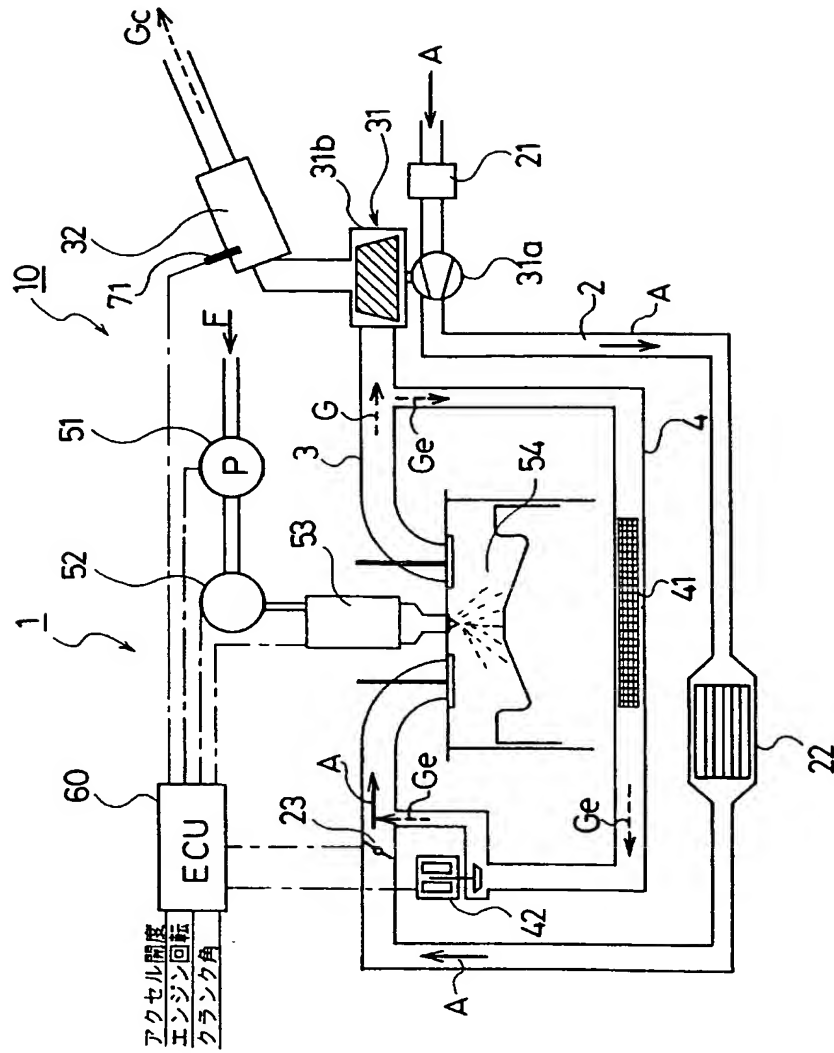
【符号の説明】

- 1 エンジン
- 2 排気通路
- 3 2 直接還元型 NO<sub>x</sub> 触媒
- 6 0 制御装置 (ECU)
- 7 1 温度センサ (触媒温度検知手段)

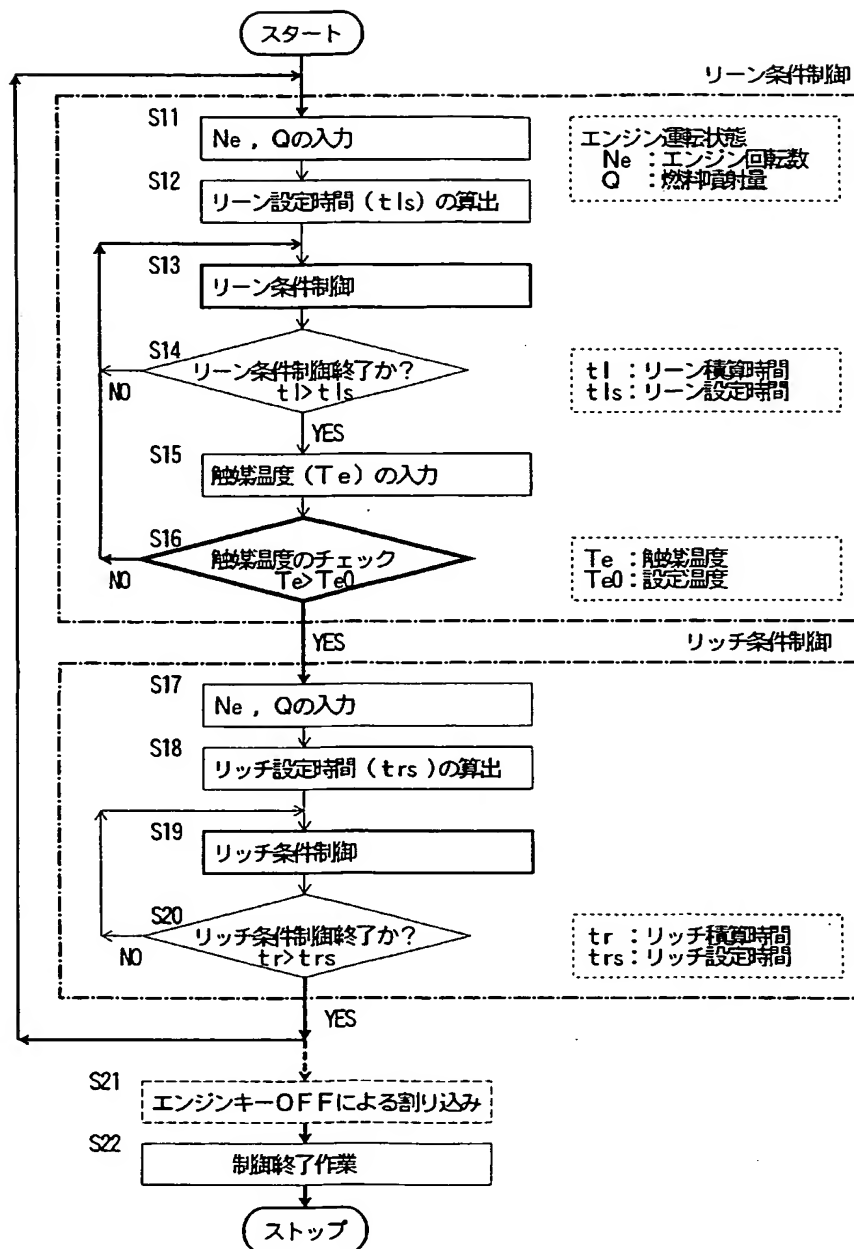
【書類名】

図面

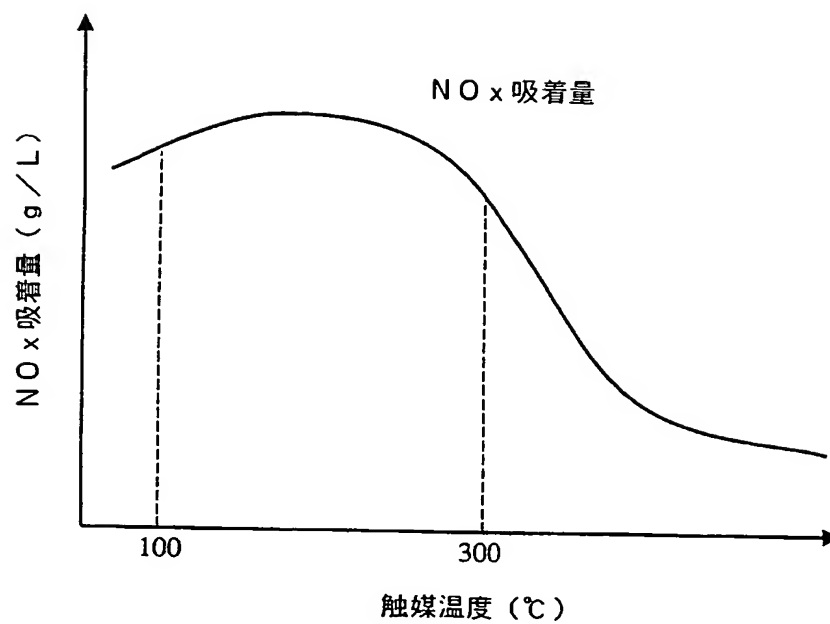
【図 1】



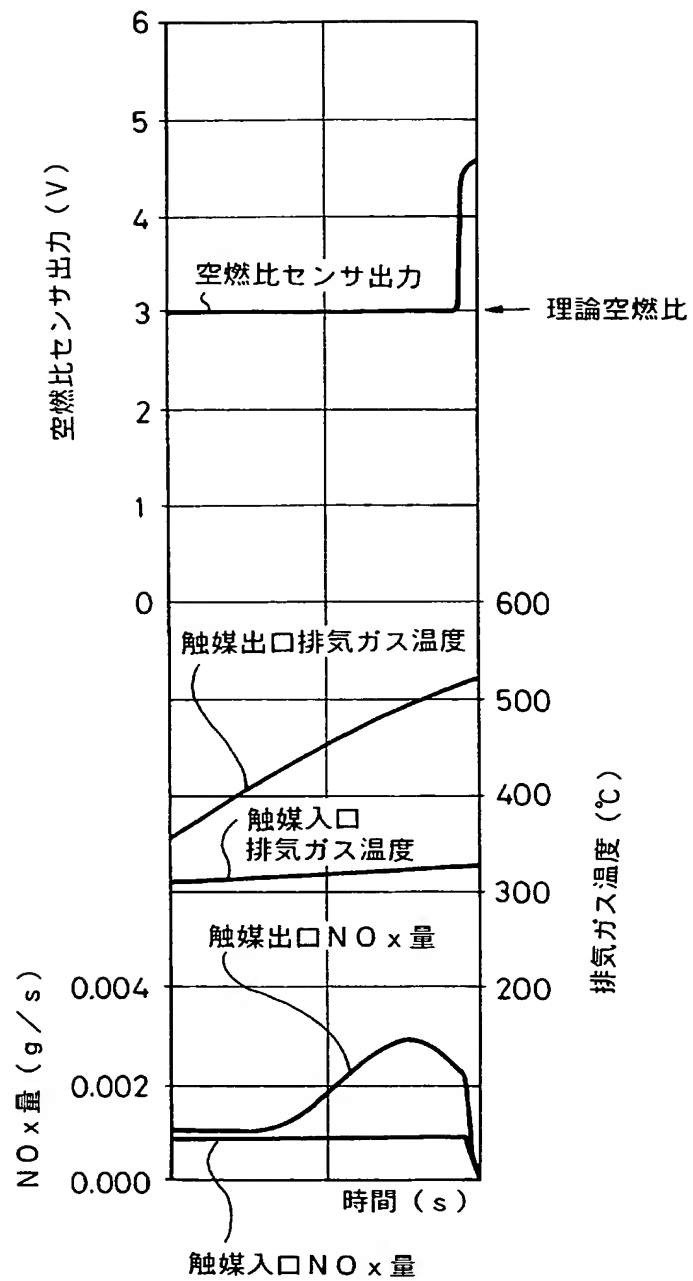
【図 2】



【図 3】



【図 4】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 エンジンの排気通路に設けた直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒の  $\text{NO}_x$  浄化能力を回復する触媒再生のために、一時的に排気ガスをリッチ条件にする際に、大気中への  $\text{NO}_x$  の排出を抑制でき、また、確実に浄化性能の回復を図ることができる  $\text{NO}_x$  浄化システムの  $\text{NO}_x$  触媒再生方法及び  $\text{NO}_x$  浄化システムを提供する。

【解決手段】 リーン時に  $\text{NO}_x$  を直接分解し、リッチ時に再生される直接還元型  $\text{NO}_x$  触媒を排気通路に備えた  $\text{NO}_x$  浄化システムにおける  $\text{NO}_x$  触媒再生方法であって、触媒温度検知手段によって検知された温度が所定温度範囲にある時は、リッチ条件制御を禁止する。

【選択図】 図 2

特願 2 0 0 3 - 0 4 1 4 7 8

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [ 0 0 0 0 0 0 1 7 0 ]

1. 変更年月日 1 9 9 1 年 5 月 2 1 日

[変更理由] 住所変更

住 所 東京都品川区南大井 6 丁目 2 6 番 1 号

氏 名 いすゞ自動車株式会社